

令和元年度授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬第五中学校第2学年

	学力調査から見えた課題(調査のない教科は授業における課題)	授業改善のための具体策	成果と課題(年度末)
国語	授業には意欲関心をもちつつも臨んでいるが、短絡的思考だったりじっくりと物事に取り組む姿勢が弱かったりする傾向があり、それが学力調査にもあらわれている。「読む能力」に関しては、文学的文章と説明的文章の読解のポイントの違いなどを理解し、活用できつつある。学力調査で正答率の低かった「書く能力」の指導を重点項目とし、基礎的なスキルを身につけること、主題に対して自分の考えを明確にもち、根拠や構成を推敲していくことなどを理解させる指導を行っている。	主体的に授業に取り組ませるため、学習の目標を明示し意識させる。「書く力」の授業において、パターンに倣った書き方の演習で基礎的なスキルを身につけさせる。目的に応じての構成の工夫や、「何について書くのか」という主題を明確に捉える意識をもたせるための学習を重ねる。また、小グループでの意見交換や話し合いの場を多く取り入れ、自分の考えを深めて表現することができるよう授業形態を工夫していく。	
数学	文、式、図、表などを読みとり、関係を正しくとらえることや、そのことが成り立つ性質に関連付けて考えることに課題がある。習得した知識・技能を基にして考える過程を説明したり、式や言葉で表現したりする力をつける必要がある。知識の理解の程度、技能の習熟の程度など、生徒個々の学習の実現状況が広がる傾向にある。	数学的に表現されたことがらを言葉におきかえたり、場面を図式化してイメージをもてるようにする。説明し伝えあう活動では、自分の考えや気づきを書く時間を確保し、問題解決の過程を振り返ることを大切にす。数学の学びの連続性や累積性に配慮し、前段階での既習事項を確認しながら授業を進める必要がある。	
社会	ほとんどの生徒が授業に意欲的に取り組んでいる。特に写真や資料を読み取り、説明・表現するような活動には積極的に取り組んでいる。一方で、事象間の関係についての問いに関しては、挙がる手も減り定期テストの点数も低かった。今後は、資料の読み取りだけでなく事象間の因果関係を掴み、なぜ?という問いに対して、文章で答える力を身につけさせることが課題となる。	授業の中で、なぜ?と問う場面を増やし、社会的事象間の因果関係について考えることに慣れさせる。その際には、こちらの説明を待つて写すのではなく、自分自身の頭を使って考えさせることが重要である。そのために、生徒が自分の言葉で答える場面と板書を写す場面を明確に区切り、かつ、こまめにノートやプリントを提出させ、生徒が自分で書いた考えを確認していく。	
理科	実験・観察の作業を好む生徒が多く、意欲的に取り組む生徒が多い。学力調査の結果から理論的に説明することや、今まで学習した内容を踏まえて考えることに苦手意識が高く、今回の調査でも思考・表現の観点の正答率は低いことがわかった。	・既習事項をしっかりと定着させるために、小テスト等を行い、少しずつ指導をする。 ・自分の考えを文章で表すことについては、こまめに文章を書く練習を行ったり、実験の考察の添削を重ね、パターンや考え方を定着させる。 ・計算については、主体的・対話的な学習を工夫し、生徒自身の力で解けるように指導をする。	
音楽	積極的に活動に取り組んでいる生徒が多い。合唱でも昨年度より声量を大きく歌える生徒が増えた。さらに表現を工夫させるために考えさせることが課題である。アルトリコーダーにおいてはできる生徒と苦手な生徒の差が大きい。また、楽典や鑑賞等のレポートでの表現が課題である。	実技では、パートや班などでの活動を多く行い、周りと協力し作り上げていくことの大切さを教えていく。また、リーダーを育てて活動ができるようにする。アルトリコーダーは友人同士の教え合いや、個人的に支援し基本を身に付けさせる。鑑賞においても感じ取ったことを言語にして表現できるよう、レポート作成を通して進める。具体的な説明を行い、内容が伝わるように表現させる。	
美術	・元気で積極性もあり、どんどん制作する生徒が多い。 ・発想力豊かな生徒が比較的多い。 ・コツコツ作業を継続することを苦手とする生徒に対する支援は必要。 ・授業内でいかに鑑賞を取り入れるか。 ・作品をよりよくなる個別指導。	・机間個別支援において、個々に応じた課題を的確に提示する。作品をよりよくなるアドバイスの徹底。 ・黒板及び大型画面に作品の参考又は手順、目標とすべき表現などを常に提示し、いつの時点でも確認できるようにしておく。 ・PC室、図書室などを活用して鑑賞を多く取り入れる。又、教科書等を用いて授業内導入鑑賞も取り入れ、鑑賞の授業の充実を図る。	
保健体育	授業に取り組む姿勢は大変意欲的である。授業規律が守られ、安全への意識もある。運動面だけでなく、体育分野、保健分野ともに、自ら学んでいく姿勢を高めていくことが課題である。	体育の授業では、「図解中学体育」を常に持参させ、ルールや、名称などの確認をしながら進めていく。又、自分の健康や、体力についても関心を持たせ、授業だけでなく、普段の生活にも取り入れていく姿勢を目指す。本年度もオリパラ教育を取り入れたり、体育分野、保健分野で、健康、安全について計画的に取り組む。	
技術・家庭	【技術】全体的に前向きに取り組んでいる。課題解決に向け個人差があり、グループ内で解決に向けた話し合いができる時間確保に努める。 【家庭】授業に取り組む姿勢は意欲的であり、発言する生徒も多い。生活経験に差があり、自分の食生活と授業内容を関連づけられない生徒もいる。また、知識定着のために、授業内での振り返りを充実させる必要がある。	【技術】課題に対し取り組む工夫や他者の考え方を学び、解決に向けたきっかけによりグループ中心に進める。 【家庭】実物や実験など様々な例を用いて実際に触れ、具体的に指導するとともに、班での意見交換等によりから食について考える機会を設けていく。食について様々な面から関連づけて授業に取り入れる。	
外国語(英語)	学力調査の結果から、全体的に語彙や文法知識の定着に課題がある。正確なスペルを覚えていなかったり、英語の語順などに間違いが見られた。口頭で理解できる単語なども書くことができないことが多く、英語を書く活動が不足しているようだ。	英単語や基本文などの小テストを繰り返し行い、基礎基本の定着を図る。英語を書く活動を増やし語彙の定着を図る。ペアワークやグループワークを活用し、英語を話す機会を設ける。また、スピーチテストなど導入し、英語を話すことへの自信につなげたい。	
総合	校外学習では、テーマを決め、班ごとに都内を巡った。自分の係分担任に責任をもって行動したり、協力して班行動を行い、「チームで働く力」を培った。上級学校調べ、上級学校訪問など、自分の将来の進路に向けて考える機会を持ち、「考え抜く力」を身につけた。一つの行事で、様々な力を伸ばすことができるが、わかりやすい目標の設定が必要である。	活動の目標設定では、目標をある程度絞り、生徒がわかりやすい表現で記述するとともに、事前指導における生徒の目標理解を徹底する。ふり返りを行い、補充したり、省略することで、年間を通して、バランスよく目標の達成が行えるようにする。	
道徳	何事にも興味関心をもって取り組む生徒が多いため、教材に対して感じたことを率先して発表する生徒も多い。しかし、短絡的だったり、深く思考することが苦手なため、テーマを捉えきれずにその場のやりとりで面白さに終始してしまう傾向もある。教材研究における中心発問の精選などが今後の課題である。また、他者との意見交換により多角的な視点を獲得し、自分の考えを深め自分と向き合う時間となるよう、指導案や授業形態の工夫を図る。	一つ一つの教材が自分の生活や生き方と重なるよう、終末への授業展開を組み立てる。また、グループエンカウンターやモラルスキルレーニングなどの体験的な学習を積極的に取り入れ、体感することから思考を深めさせる。目的や学習内容に合わせて、座席配置やグループ分け、発表方法なども様々な形態を取り入れていく。	